

福州事務局

柳原公使上海ヨリ島津岩倉兩大臣へ清國

製艦及ヒ艦數云々來翰

六月廿三日

清國ノ儀ハ隣接ノ大邦ニテ其盛衰強弱ノ勢常

ニ我國ニ關係シ特ニ今般征蕃ノ一舉大ニ清朝

上下ノ物議ヲ起シ旁以國政軍備人心向背等注

意スヘキ事ト思考致候仍テ當節公務ノ暇廣ク

清歐諸人ニ交際シテ探索仕居候折柄海軍ノ力ヲ

檢査シテ先別紙ノ通り上海福州兩邊ニテ所備

造ノ艦數已下承知致シ候間為御心得獻覽候當

國造船局ハ福州ヲ最トシ上海次之外ニ漢口廣

州大津ニモ小局アルヨシニ風承候別紙所載ハ  
近年新製シテ船艦備砲共ニ精良ノ由但艦將ハ  
水路案内者ヨリ撰擧シタレハ學術不精兵則怠  
惰ノ不免作併造船技術ハ蘊莫ヲ學得既ニ教師  
ノ西洋人追々免放シテ尔後清人獨力ニテ可製  
造即今所有スル分總計二十隻餘ナリ頃日ノ時  
勢ニヨリ總甲鉄ノ大艦三隻歐洲へ注文致シ候  
且英國ヨリ亞細亞へ遊泛候アイロクニユク公鉄  
ト可ト稱ヤル有名ノ良艦買入ノ談判ニ懸リ居  
候哉ノ趣モ浮言候阻シ真偽未審候尚追テ詳細

取調へ後日可呈覽候へドモ不取敢如是御坐候  
也

清國江蘇府上海縣ニテ書

明治七年六月廿三日 柳原全推 公使

島津左大臣殿

岩倉右大臣殿

勝海軍卿殿

別紙

上海ニテ製造セル軍艦

番號 艦名

福州造船局

一號 怡吉  
 二號 操江  
 三號 測海  
 四號 威靖  
 五號 海安  
 六號 取遠

福州ニテ製造セル軍艦  
 前光考フルニ福州造船局ハ我慶應三年ヨリ建設シ今年二月十六日借入ノ西洋教師

ヲ免放ス

小軍艦ナリ

西洋艦ニテトランスポルトナル者  
 算スハ軍艦ニテ運送船

番号	落水ノ年月日	艦名	軍艦種類	噸數	馬力	砲數 艦中人員
一號	千八百六十九年六月十日	イ、エ、ン	トランスポルト	千四百五十	百五十	六人
二號	千八百六十九年十二月六日	イ、エ、ン	ガンボヲト	五百十五	八十	三十人
三號	千八百七十年五月三十日	アラウシン	ガンボヲト	五百十五	八十	三十人
四號	千八百七十年十二月廿二日	伏波	トランスポルト	千二百五十八	百五十	五十人
五號	千八百七十一年六月十八日	安瀾	トランスポルト	千零五十		五十人
六號	千八百七十一年十一月廿八日	鎮海	ガンボヲト	五百七十二	八十	六十人

福州造船局

七号	千八百七十三年 四月廿三日	洋務	是極ノテ快キ船	千三百九十三	二百五	十三 百人
八号	千八百七十三年 六月三日	飛雲	トランスポルト	千二百五十八	百五十	五 百人
九号	千八百七十三年 八月廿一日	靖遠	ゴンボラト	五百七十二	八十	六 百人
十号	千八百七十三年 十二月十日	チウロエンラウエン	ゴンボラト	五百七十二	八十	六 百人
十一号	千八百七十三年 一月二日	濟安	トランスポルト	千二百五十八	百五十	五 百人
十二号	千八百七十三年 八月十日	永保	トランスポルト	千三百九十一	百五十	三 百人
十三号	千八百七十三年 十一月八日	海鏡	トランスポルト	千三百九十一	百五十	三 百人
十四号	千八百七十三年 十二月下旬	チエンハン	トランスポルト	千三百九十一	百五十	三 百人
十五号	千八百七十四年 一月下旬	艦名未詳	トランスポルト	千三百九十一	百五十	三 百人

北洋事務

柳原公使上海ヨリ寺島外務卿へ柳原宛総  
 理衙門来翰并泉州道臺米國領事宛来書其  
 他數件来翰抄略 六月廿三日

一 臺灣蕃地出征將士へ洋醫壹名被遣并製氷  
 器械下賜其巨細ハ當地分局ニテ可聞取旨公信  
 ニテ来示ニ候へ共長崎支局判任官一兩名事情  
 探索ノタメ罷在候ノミニテ當地ニ分局無之候  
 二 へ更ニ一向承知不致候右ハ發足前大久保参  
 議へモ申込置尚ホ今便モ大隈参議へ相通シ候  
 間 台湾事件ニ係リ内外往復トテ西郷都督長崎

十四

蕃地事務局